

『一生懸命』幻の新座市議会報告第168弾!



たかむらともや

③ よいお年を! 2

12月議会、そして2018年が終わろうとしています。

今回の一般質問では「にいいバス」の問題を取り上げました。この問題は石神三丁目の丸善住宅の御高齢の方から、「にいいバスのバス停が遠くて利用したくてもできません。」「歩いて堀之内病院に行くには遠すぎます。」「タクシーは高くて乗れません。」「病院に行くのを我慢してしまいます」という実情を聞いての質問になりました。

「にいいバスを高齢化が進んでいる地域を意識して運行できないか。」「バス停以外の場所であっても乗降できる仕組みにできないか」という提案をしました。直ぐにいい答弁は引き出せませんでした。これから高齢化は進んでいくのですから、にいいバスの役割は小さくありません。いつもガラガラでは税金の無駄遣いです。多くの人が利用しやすいバスにしたいものです。

③ 2018年の笑顔2



久しぶりに西堀のテニスコートに行くと、こんな素敵な笑顔に遭遇しました。

「絶対に載せなさいよね!」「勿論ですよ。」という約束をしましたので、こうやって掲載します。(笑)

テニスをしていると、時々こういう笑顔に会えます。中一の1学期はバスケット部、2学期はバレー部、そして3学期はテニス部。そんないい加減な中学生はどこを探してもいないと思います。でも、そんな僕がいたから、テニスをはじめた子達がたくさんいるのです。テニスというスポーツを選択した自分に感謝!!

2018年12月31日発行



12月16日。2年連続で全国大会に出場し、滋賀の希望ヶ丘文化公園で激走し、全国10位になった五中陸上部のメンバーの笑顔です。



たかやんのプロフィール



1954年、港区青山生まれ。

本名 たかむらともや

新宿区立西戸山小中学校卒。
新宿区百人町では超有名な超悪ガキで成績も超悪かったので、PTAのおばちゃん達から嫌われていた。都立石神井高校

ではテニスだけしかせず、クラスでは最下位となる。北大時代もテニスしかせず、単位を落としまくり、結局、卒論を出さずに卒業。信じられないことに新卒で新座五中3年4組の担任となる。嘘でしょ!!

五中・六中では子ども達と一緒に定期テスト、実力テストを受けながら「理科」「数学」「国語」「英語」「体育」の授業を教える。

五中、六中でもテニスに燃え、関東で5回、全国で2回優勝するが、実は部活よりも「クラス」クラスよりも「授業」大切人間だった。(本当ですよん!)

現在は石神3丁目の「たかやん塾」で小中学生と「個別対応」の塾をやりながら、月に一度7か所での駅立ちに燃えている。写真は大好きだったアッペ。

好きな政治家はホセ・ムヒカ、田中角栄。
大嫌いな政治家は日本を財界とグローバル企業と米国に売り渡す安倍晋三とその一味。



たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 2018年の笑顔2



昔、五中軟式テニス部を硬式テニス部に変えた中学生達がありました。

その首謀者一早です。彼らのせいというか、お陰で僕はテニスの世界に戻ってきたのです。

保谷駅で、いつも笑顔とハグをくれる一ちゃんも五中のテニス部です。空ママと同級生のる一ちゃんに会えるので保谷駅は大好きな駅です。来年も沢山会えるといいなあ…。



たかやん塾の卒業生の美咲です。東久留米でのツーショットです。美咲にはハイタッチして貰ったり、ハグして貰ったり……。いつも元気を貰っています。感謝、感謝です。

石神井高校の同級生の島田です。「高邑！おはよう！」「行ってらっしゃい！」「行って来ます！」「都立日比谷の先生になった島田も来年の春に退官です。お疲れ様！



94歳になった母です。会いに行くと、両手を差し出して喜ぶ母です。母の手はいつも僕の冷たい手を温めてくれます。不思議なことに、母の手の感触は小さい頃、僕の手を握って、僕を安心させてくれた手の感触と同じなんです。母さんの手の力って凄いんです。母の手を握ると、今でも安心する自分がいます。母の手に感謝！

③ 教師を目指す人へのメッセージ4

子供達には「いい言葉といい栄養で育つ権利」があります。「言葉が持つ力」を知らずに教師をしてはいけません。あなた達の口から出た言葉にはそれだけの力があるのです。

学校は全ての時間が授業です。廊下で会っても校門で会っても、勿論、授業中も「言葉」には最大の敬意を払わなくてははいけません。

僕は教育実習を函館中部高校の定時制でやらせて貰いました。1年生の生物の授業をしたのですが、酷い内容でした。何しろ自分でも何をしているのかよく分からなかったですから。それでも生徒達はみんな真剣に聞いてくれました。眠い目をこすりながら、真剣に聞いてくれたのです。

最後の日に教頭先生から僕らはこういう言葉をもらいました。「君たちの授業は確かに下手です。酷いものです。しかし、君たちには僕らにはないものがあります。それは言葉です。彼らと共通の言葉です。その言葉をいくつになっても失わないでください。お願いします。」その言葉のお陰で僕は教師をやったのです。「彼らと共通の言葉」それは上からものをいう「言葉」ではありません。勿論、こどもたちのいうところの「タメ語」で話せという意味ではありません。それは子供達と何でも一緒にやっているうちに分かってくる言葉です。苦しい事も楽しいことも一緒にやってみよう。やらせるのではなくて、一緒にやる。それが味噌です。大きな声で校歌を歌って欲しかったら、自分も一緒に大声で歌う。一生懸命勉強して欲しかったら自分も一緒に勉強するのです。そうすると彼らの言葉が聞こえてきます。言葉はまず耳から覚えなくてははいけません。彼らの言葉が聞こえるようになったら、自分がしゃべるのは時間の問題です。大学卒業してすぐの新米教師は特にその能力が高いはずですが。何しろちょっと前までは文字どおり「学生」だったのだから……ところが「先生」になった瞬間にその言葉を忘れてしまい、二度と話せなくなる教師がいるのも事実です。彼らは残念ながらプロの教師にはなれません。

言葉が話せないということはコミュニケーションができないということです。最初が肝心です。言葉の力は凄いのです。笑顔つきの、いい言葉より強いものはありません。大丈夫。貴方ならきっとできます。

読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください m(_ _)m